

機器・試薬セミナー：10月9日（土）13：00～15：00

- 機器・試薬セミナー1（特別セッション）（13：00～15：00）第1会場（503）
座長：三嶋 廣繁（愛知医科大学大学院医学研究科 臨床感染症学）

テーマ：「核酸検出検査の未来－GeneXpert システムによる新しい検査の姿－」

- 演者1：荻原 真二（東邦大学医学部 地域連携感染制御学講座）
- 演者2：大柳 忠智（聖マリアンナ医科大学病院 臨床検査部）
- 演者3：萩原 繁広（済生会宇都宮病院 医療技術部）
- 演者4：黒川 正美（国立国際医療研究センター病院 中央検査部門）

核酸検出検査は、2019年12月から始まった新型コロナウイルス感染症により、これまでにないスピードで臨床現場に普及をした。一方で検査現場における核酸検出検査への対応は、環境整備や機器、試薬選定のほか、検査を実施する際の煩雑性から技術的に簡単なことではなく、苦慮する場面がみられた。こうした中、簡便な操作と信頼性の高いリアルタイム PCR 法による自動遺伝子解析装置「GeneXpert システム」が広く普及した。今回、機器・試薬セミナーでは、PCR の基礎から迅速にリアルタイム PCR を可能とする本システムの紹介に加えて、体外診断用医薬品として販売されている3品目による臨床検査現場における新しい検査の姿について紹介したい。

ベックマン・コールター株式会社

- 機器・試薬セミナー2（特別セッション）（13：00～15：00）第2会場（501）
座長：矢富 裕（東京大学大学院医学系研究家 内科学専攻 病態診断医学講座 臨床病態検査医学分野）

- 演題1：SARS-Cov-2 検出に用いられる各種検査法の特徴とその用途
- 演者：石井 良和（東邦大学医学部 微生物・感染症学講座）
- 演題2：新型コロナウイルス PCR 検査等の外部精度管調査結果から見えてきた課題と対策のポイント
- 演者：宮地 勇人（東海大学医学部基盤診療学系 臨床検査学）

（検討中）

サーモフィッシャーダイアグノスティックス株式会社

- 機器・試薬セミナー3（従来セッション）（13：00～14：40）第4会場（301）
座長：吉田 博（東京慈恵会医科大学附属柏病院）
：日高 洋（大阪大学）

- 機器・試薬セミナー3-1「検体検査の精度の確保・標準化と精度管理システム”NI-QCS”の開発と有効性について」

- 演者：坂田 裕二（日水製薬株式会社 プロダクトマネジメント課）

（検討中）

日水製薬株式会社

- 機器・試薬セミナー3-2「感染症迅速遺伝子検査システムのご紹介」

演 者：藤本 聖人（東洋紡株式会社 診断システム事業部）

新型コロナ感染拡大に伴い、多くの医療機関で遺伝子検査が行われるようになってきました。遺伝子検査は、特異性および検出感度の点で非常に注目されている反面、感染防止を踏まえた臨床試料の取扱、専用の装置が必要であることなど正確な検査を実施するためのトレーニングが求められます。このような現状に鑑み、弊社では21年度より全自動遺伝子解析装置「GENECUBE(モデルC)」の販売を開始しました。本装置は、本体設置面積は縮小しながら、12検体の同時測定と、同一検体の複数項目測定など、検査数の拡大と操作性を向上したモデルです。また本装置は、抗酸菌症、呼吸器感染症、血流感染症、性感染症、消化器感染症関連の体外診断用医薬品を用いることが可能であり、様々な感染症の検査を迅速かつ簡便に実施するシステムとして、実施例を含めご紹介をさせていただきます

東洋紡株式会社

■機器・試薬セミナー3-3「型コロナウイルス検出対応、小型・高精度リアルタイム PCR Mic リアルタイム PCR と周辺機器の紹介」

演 者：未定

Mic リアルタイム PCR はフットプリントが15cm x 15cm とコンパクトサイズで持ち運びして使用することもでき、設置場所を選びません。装置の温度制御は Magnetic Induction Heating (IH の原理) による加熱方式で、冷却は空冷ファン方式を採用しているため、従来のペルチェ式のリアルタイム PCR 装置と比べ温度精度に優れ故障に強いシステムです。また、可動部のない光学系は、定期的なキャリブレーションや色素補正を必要とせずにご使用いただけます。今回は新型コロナウイルス検査における装置使用例のご紹介や、自動分注ワークステーションとの組み合わせによる、サンプルセットアップの為のソリューションをご紹介します。製品の情報については、弊社 Web サイトからもご覧頂けます。

株式会社スクラム

■機器・試薬セミナー3-4「コバス Hybrid 拡張と集約」

演 者：江田 隼一郎（ロシュ・ダイアグノスティクス(株) ラボソリューション事業部 ICL 部）

（準備中）

ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社

■機器・試薬セミナー3-5「新しいロシュの遺伝子検査システム～高感度 PCR をより簡便・迅速～」

演 者：沖田 規幸（ロシュ・ダイアグノスティクス(株)遺伝子診断事業部マーケティング部）

ワクチン接種が進み、新しいフェーズを迎えつつある新型コロナウイルスの国内感染状況において、必要な時に PCR 検査結果が得られる、POCT (point of care testing) 用途の遺伝子検査、すなわち、「molecular POCT」の要望が顕在化している。当社は、感染拡大初期に新型コロナウイルスの PCR 検査を実現する研究用試薬 LightMix Modular SARS-CoV (COVID-19) の販売を開始し、感染拡大期においては、多検体を抽出から測定まで全自動で行うコバス®6800/8800 システム用の検査試薬、コバス SARS-CoV-2 およびコバス SARS-CoV-2 & Flu A/B の販売を開始し、PCR 検査体制の拡充に貢献してきたが、高い信頼性・堅牢性をもつ TaqMan PCR 技術をそのままに、簡単に迅速な PCR 検査が行える「コバス® Liat」が新たに加わった。コバス®Liat は、SARS-CoV-2 に加え、A 型/B 型インフルエンザウイルスを同時に検出することが可能であり、検体から結果までわずか 20 分と簡易抗原検査と同等の時間で PCR 検査の結果を得ることができる。ポストコロナにおいて、重症患者のトリアージや院内感染対

策に対して molecular POCT が国内でも利用可能となることでさらなる医療価値向上に寄与できると考えている。コバス®Liat の特徴や性能についてご紹介したい。

ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社

■ 機器・試薬セミナー4(従来セッション) (13:00~14:20) 第5会場(302)

座長：高橋 聡(札幌医科大学)

内海 健(九州大学)

■ 機器・試薬セミナー4-1「糞便検査における多項目同時測定を実現した小型の分析装置『OCセンサーCeres』」

演者：阿久津 敏(マーケティング推進室マーケティング一部)

当社では、本年2月、便潜血検査において広く使用いただいている小型の分析装置『OCセンサーio』の後継機として『OCセンサーCeres(ケレス)』を発売いたしました。本装置は、コンパクトで優れた機能を継承しつつ、S採便容器を用いて糞便中のヘモグロビンやカルプロテクチン等、最大3項目を同時に測定する機能を有し、簡便で迅速に結果を得ることができます。さらに、「試薬情報のバーコード管理」、「全自動希釈再検」の機能を追加する等、ユーザビリティを強化し、便潜血検査を始めとした糞便検査に広く貢献するものと考えています。本セミナーでは、本装置の特徴や主な仕様についてご紹介させていただきます。

栄研化学株式会社

■ 機器・試薬セミナー4-2「IoT機能を活用した血液ガス分析装置のカスタマーリンクシステム」

演者：星島 康(株式会社テクノメディカ)

血液ガス分析は緊急を要する病態解析の主要な検査となっているため24時間365日測定可能な状態を維持されている必要がある。複数台の装置は院内の回線を通して装置状態や測定データを一元管理している例もあるが、専用のPC上のみでの確認となるため、管理者やメンテナンス事業者が装置状況を直接把握することはできない課題がある。

近年IoTが様々な産業分野へ浸透し、臨床検査分野においてもIoTの活用に伴う種々の視点からの革新が進んでいる。テクノメディカが血液ガス分析装置の開発で長年培ってきたセンサー技術とIoT技術を駆使した新しいカスタマーリンクシステムを搭載した血液ガス分析装置GASTAT-700Modelについてその活用事例を紹介する。

株式会社テクノメディカ

■ 機器・試薬セミナー4-3「ISO/IEC 17043 認定の外部精度保証サービス EQA プログラム」の紹介」

演者：植村 康浩(診断薬マーケティング部)

検査室にとって技能試験(外部精度管理調査)は、検査データの正確性の確認は元より、検査結果の品質を確保する上で重要なツールとして、国内のみならず世界中で受け入れられている。また、日々の内部精度管理と、定期的な技能試験(外部精度管理調査)への参加は、検査結果の精度・品質を確保するための手段として積極的な活用が求められている。「EQASプログラム」は、1年間を1サイクルとして参加するISO/IEC 17043(技能試験に対する一般要求事項)認定の世界的な外部精度保証サービスで、臨床化学、血中薬物、感染症、輸血検査など17のプログラム、200項目以上の技能試験が準備されている。

バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社

■機器・試薬セミナー4-4 「IH-Central」 - 24時間安心・安全な輸血検査体制の構築に貢献」

演 者：湯浅 隼人（マーケティング本部 診断薬マーケティング部）

【はじめに】

近年、輸血検査におけるヒューマンエラー回避とリスクマネジメントの向上、輸血関連業務の拡大に伴う輸血検査業務の効率化等を目的に自動輸血検査機器が普及しています。また、輸血業務を管理するための部門システムの導入が進み、自動輸血検査機器等の検査データをオンライン連携して正確かつ効率的に活用し、輸血検査の安全性向上が図られています。

【IH-Central】

「IH-Central」とは、輸血業務に関わるデータの電子化・集約管理を実現し、輸血検査の安全性向上および輸血業務の効率化に貢献するための弊社ソフトウェア製品群の総称になります。本セミナーでは、IH-Central が 24 時間安全・安心な輸血検査体制の構築に貢献する点について詳細を説明します。

バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社